



2024-2025年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーのマジック

THE MAGIC OF ROTARY

写真提供: 山本有樹会員



倉敷南ロータリークラブ

国際ロータリー第2690地区第7グループ 創立Jul.7.1961
〒712-8051 倉敷市中畝6丁目6-17

第 2983 例会 R. Song 「それでこそロータリー」 天候：晴れ No.2983/2024. 11. 29

Guest (株)木の里工房 木薫(もっくん) 代表取締役社長 國里哲也様

Visitor 星島様 (倉敷)

出席 会員数 62 名 (うち出席規定免除者 16 名@2 名①14 名)

11/29 の出席率 69. 81% (出席者 37 名、内①7 名)

欠席 浅見、井手、石本、栗元、三宅(典)、中川、沼本、関家、寫田(晴)、滝川、
渡辺(英)、山本(英)、山本(由)、柳沢、横道、横田、各会員 (16 名)

●和田一朗会長

・〈会長の時間〉最近あった話をさせていただきます。先週、若いころからお世話になり、また 40 年来のお付き合いをさせてもっていた敬愛する方が亡くなりました。そういった方が亡くなれるとやはり心の中に穴が空いたような寂しい気持ちになります。人は常に別れを抱いて生活しております。出会いがあるから別れがあります。このように歳をとるにつれて両親を送ったり、同窓を送ったりといろいろな別れがございます。人生とはそんな出会いと別れでありますので皆さまも尊敬できる方や身近な方を想っていただけたらと思います。

●幹事報告(青井幹事)：地区世界社会奉仕オンラインセミナーの資料、他来信 2 件

●スマイル報告(佐藤 S. A. A) ※紙面の都合上、同じ内容のスマイルは割愛しております。

・和田会長、三宅副会長、佐藤 SAA、青井幹事、プログラム委員会 和田(務)、石田、流田、大段、馬場、各会員：(株)木の里工房木薫 代表取締役社長 國里哲也様のご来訪を歓迎いたします。本日の卓話楽しみにしております。

・井上、石田、和田(務)、各会員：先日、倉敷商工会議所の優良従業員表彰式があり当クラブの所属会社の社員の方々が表彰されておりました。何時も配膳でお世話になっているアイビーの池田さんも表彰されておりましたので紹介いたします。

・渡辺(昇)会員：11/10 開催の第 2 回和田会長杯ゴルフコンペにて優勝することが出来ました。メンバー、キャディさんに恵まれ今年初の 80 台でした。

・渡辺(祐)、永井、各会員：倉敷 RC 星島様ようこそお越しくださいました。

●プログラム 卓話「森から子どもの笑顔まで」 講師：國里 哲也 様

- ・先ずは、(株)木の里工房木薫（もっくん）がどのような経緯と想いで、何をしようとしているのかというところを中心にお話しさせていただきます。設立は平成 18 年 7 月 10 日、弊社がある場所が鳥取と兵庫の県境にある人口 1,300 人程度の西栗倉村という小さな村です。特徴としては I ターンの方が多いです。
- ・現在は、人口の 20%が I ターンの方で占めており、逆に言うところの 20%の方々がいなかったら多分小学校は廃校になっています。もう一つ特徴的なこととして、この 15 年くらいの間に村では新たな会社が 50 社くらい設立しております。造語ですがローカルベンチャーという言葉も生まれたくらいです。その中で、弊社がローカルベンチャー第一号と地元では言っていております。
- ・弊社は間伐とかを扱う林業をしております。その間伐材から保育園や幼稚園の遊具や家具またウッドデッキのようなものまでデザイン製造販売を商いとしており、基本すべて自分たちでエンドユーザーに販売を行っているような会社です。またお客様もほとんどが保育園や幼稚園、児童養護施設、つまり子供たちがいるような施設っていうのがメインの顧客さまであります。あと岡山市内において認可保育園の経営も行っており 6 次化産業としても取り組んでおります。
- ・山の話もさせてください。日本の国土の 66.7%が山林です。森林率（国土における森林が何%というもの）でみるとフィンランドが 1 位で、スウェーデンと日本が統計方法によって前後しますが 2 位 3 位くらい。木の使用量は日本は第 3 位です。日本でやはり建築って言ったらやっぱり一番に思いつくのは木造だと思います。家を建てる場合はやっぱり木造で建てる、そういう国民性であります。日本の国土の 3 分の 2 が山ですが、その 3 分の 2 は植林された山で、人が植えた山というものがその中の 40%を超えています。人工の植林っていつぐらいを行われたかというところ昭和 20 年代後半から昭和 40 年代です。
- ・消費者は木が高価なもの、林業では赤字になるような業種というようになりかなりのギャップがあります。そこで消費者と生産者がダイレクトに繋がらなければ木材の需要拡大、林業の発展はないと考えました。木は採算に合わない産業であるし、後継者もないという問題もあります。「森から子供の笑顔まで」っていうのを 19 年前に掲げて、最初っからターゲットをもう誰に与えたいんだっていうのをそこに絞り、木を切るところから自分たちで確保して頑張ってきました。先代から受け継いだものを次の代に繋げていき、このような作業が子どもたちの笑顔に繋がっていけば良いかなと考えています。

例会プログラム予定：12 月 6 日(金)卓話「つやまロボットコンテストについて」

津山市産業経済部みらい産業課 主任 宇野憲人様、主事 富田修平様 / 12 月 13

日(金)卓話 イニシエーションスピーチ 滝川 剛 会員